

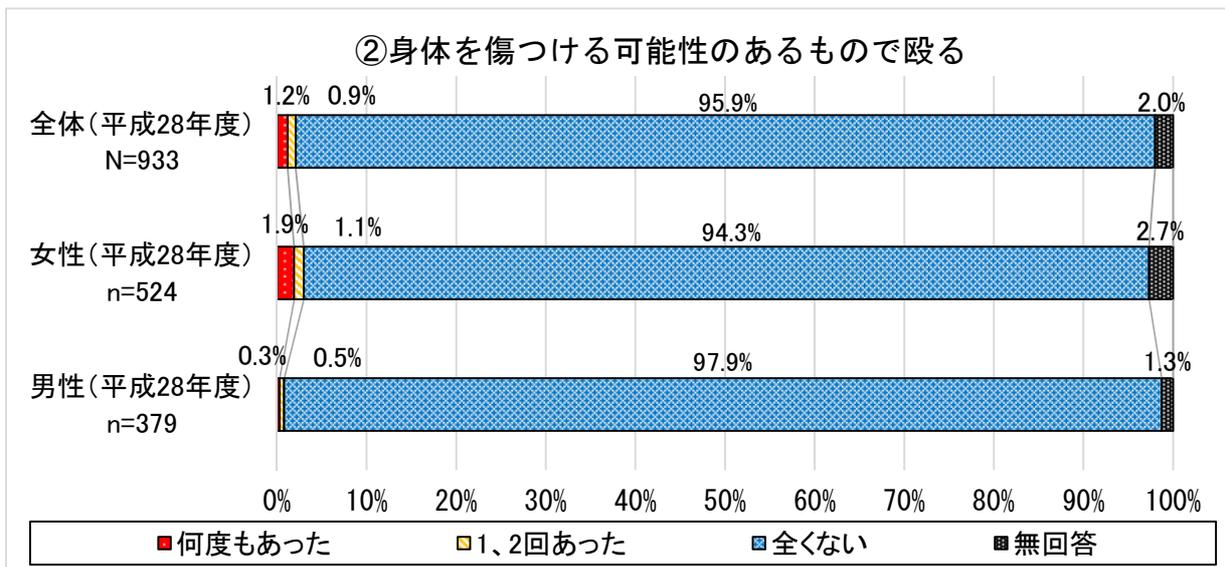
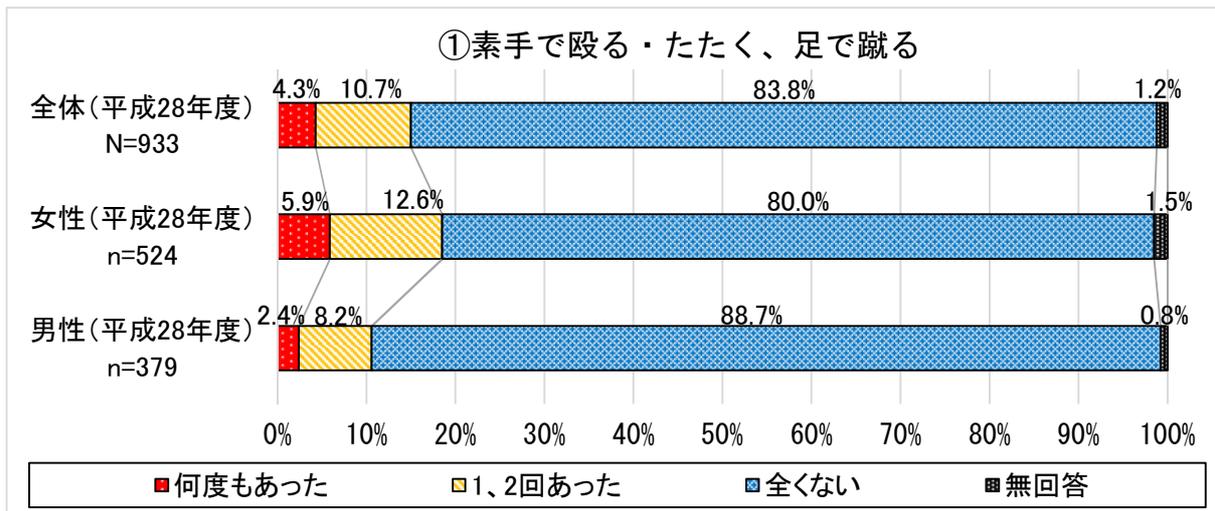
配偶者等からの暴力について

配偶者（またはパートナー・恋人）がいる（または以前にいた）方のみ回答

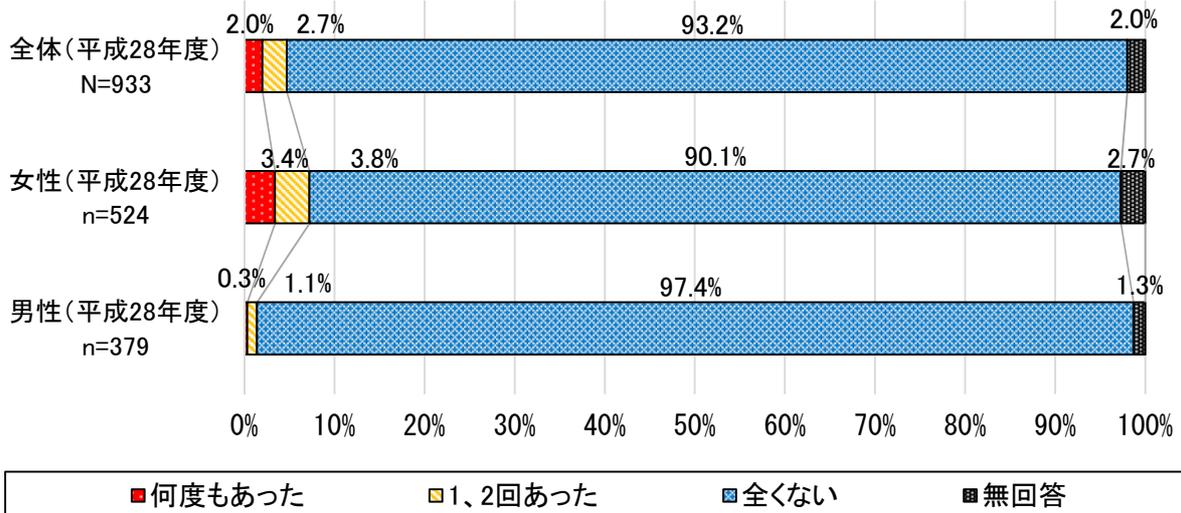
問 16. あなたは今までに、配偶者（またはパートナー・恋人）から以下のような暴力（ドメスティック・バイオレンス※）を受けたことがありますか。
（○印はそれぞれ1つずつ）

配偶者等から暴力を受けた経験についてみると、いずれの項目も「全くない」が大多数であるが、全体で「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた被害経験の割合は、「⑧大声でどなる」（33.8%）が最も高く、以下「⑨人格を否定するような暴言を吐く」（23.1%）、「⑥何を言っても長時間無視し続ける」（21.5%）と続いている。

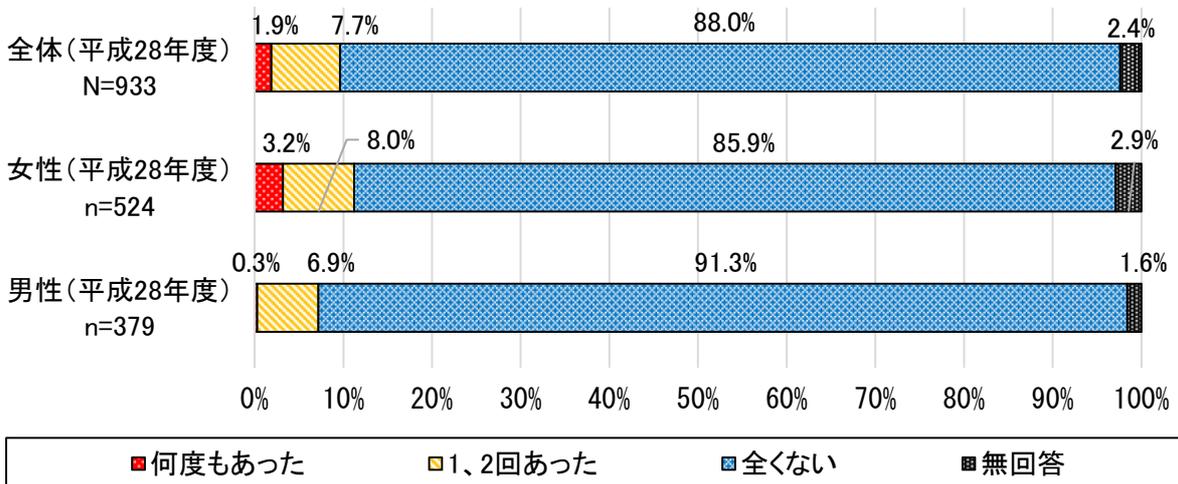
性別にみると、いずれの項目も女性の方が男性よりも被害経験の割合が高くなっているが、特に身体的暴力（①～⑤）、人格否定（⑨）、及び性的暴力（⑫～⑮）においてその差が顕著となっている。一方、その差が最も少ないのは「⑥何を言っても長時間無視し続ける」であった。



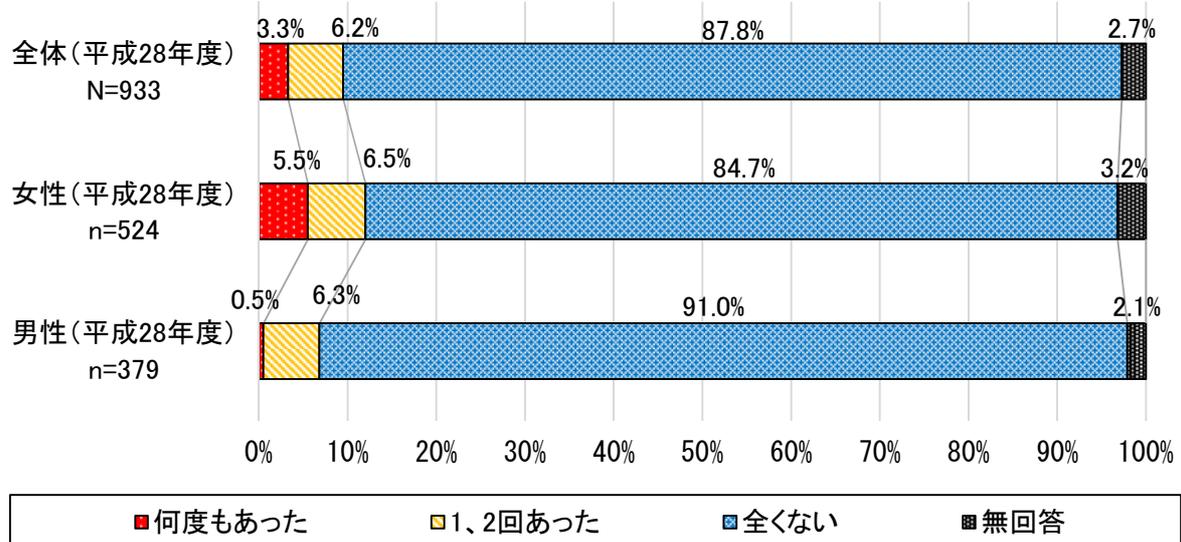
③打ち身や擦り傷などのケガを負わせる



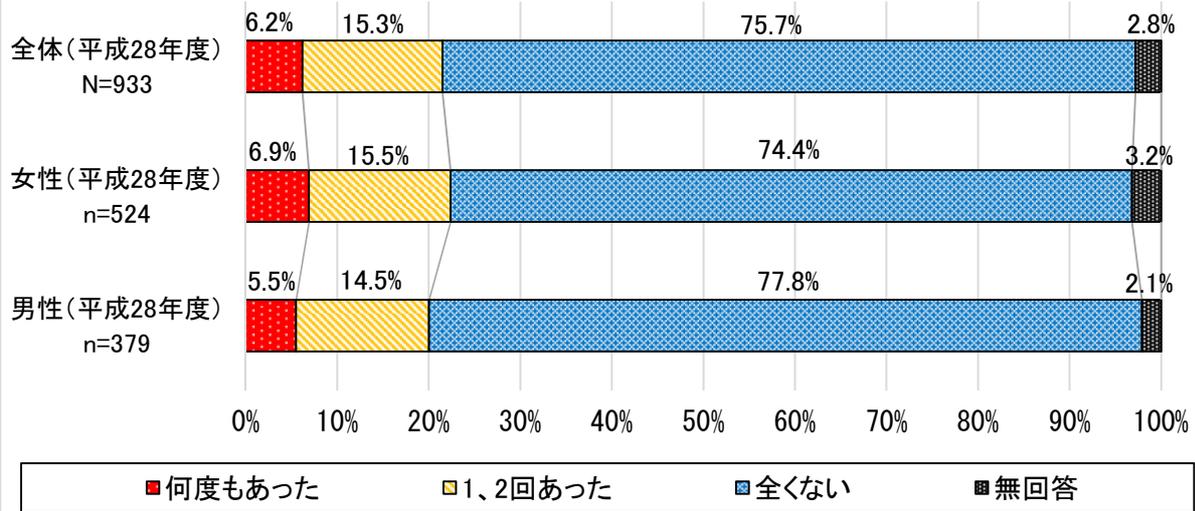
④相手に向かって物を投げつける



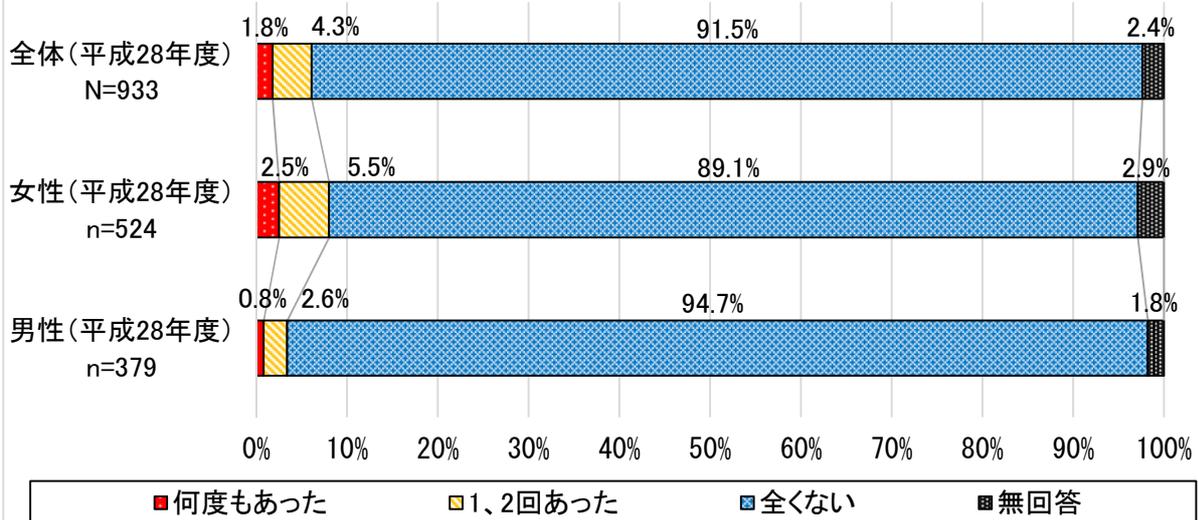
⑤殴る(蹴る)ふりをしておどす



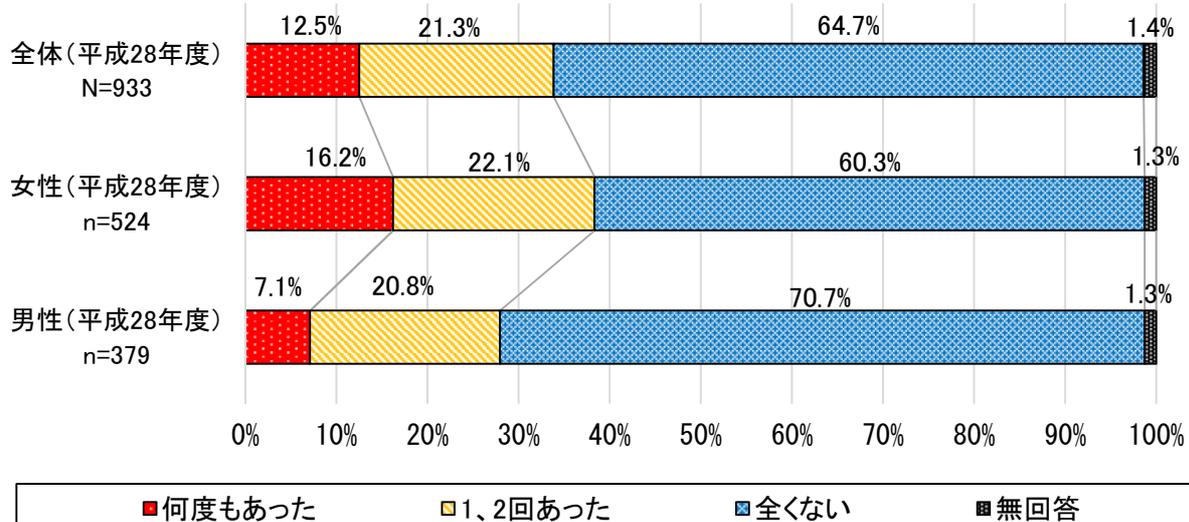
⑥何を言っても長時間無視し続ける



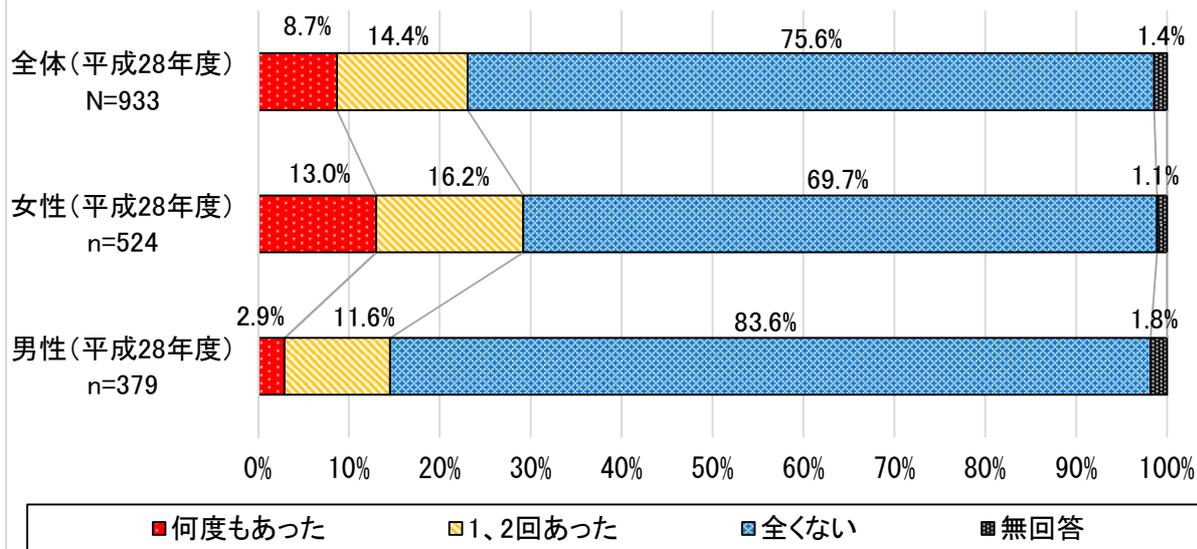
⑦大切にしている物をわざと壊す・捨てる



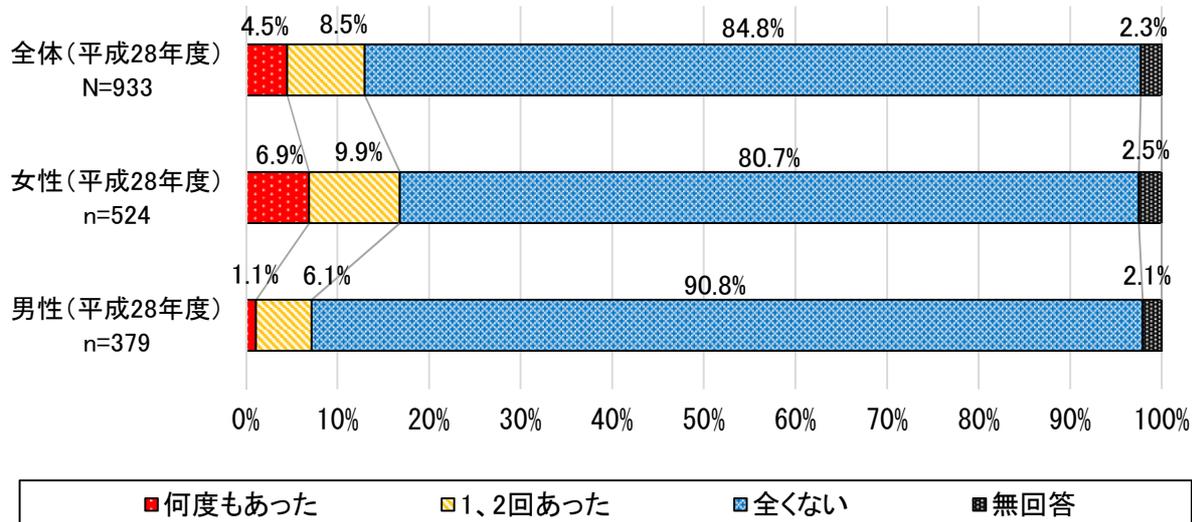
⑧大声でどなる



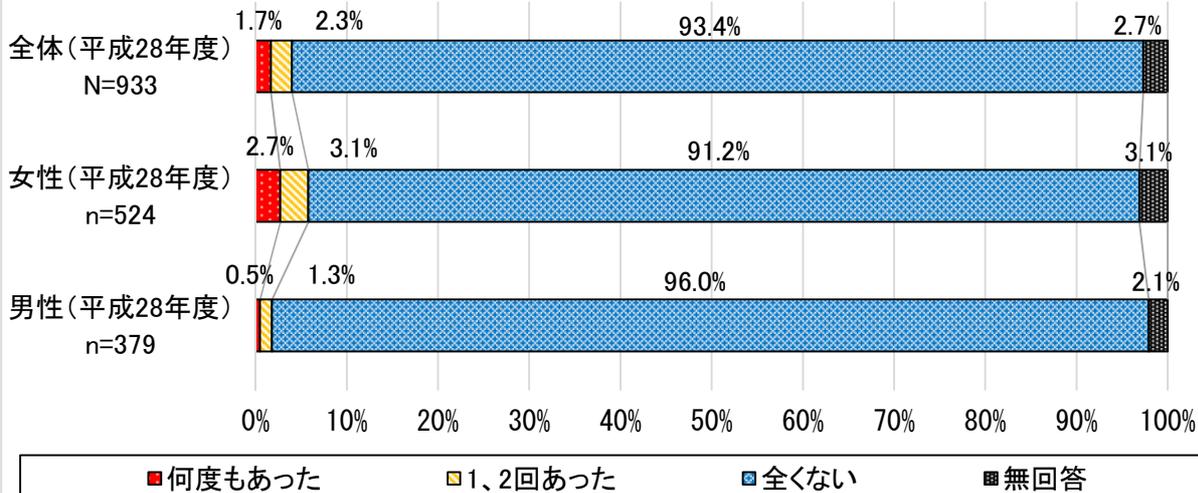
⑨ 人格を否定するような暴言を吐く

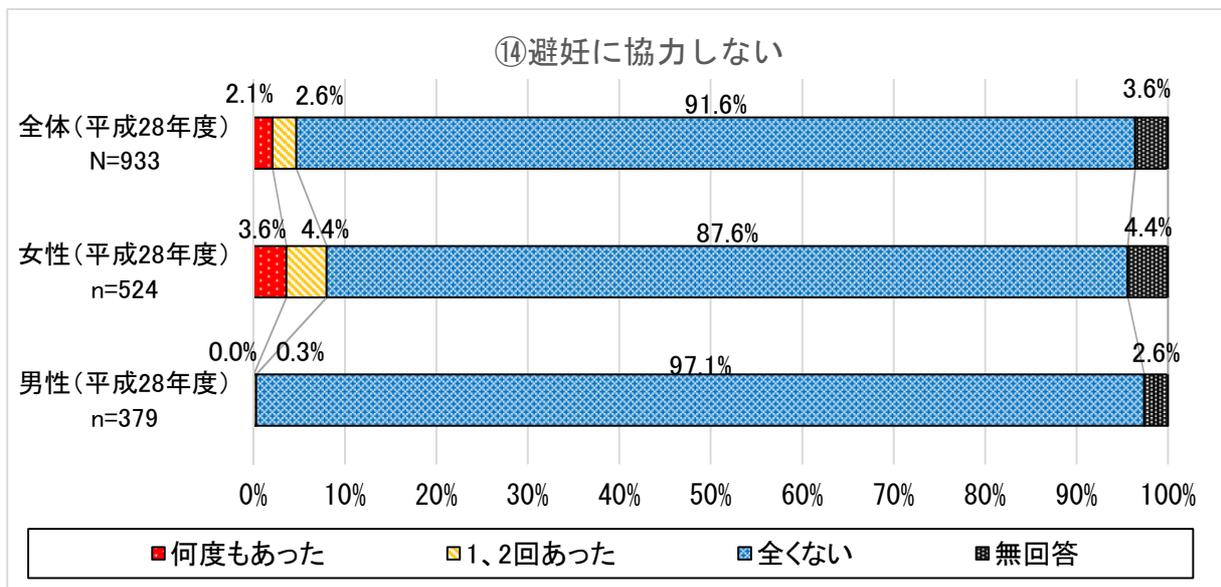
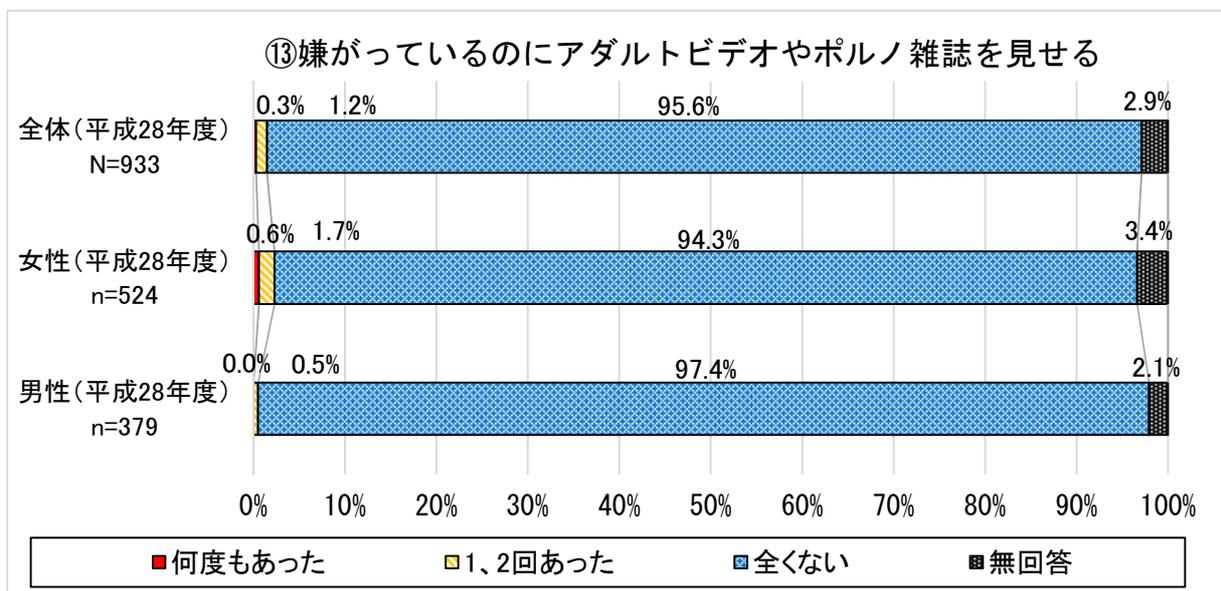
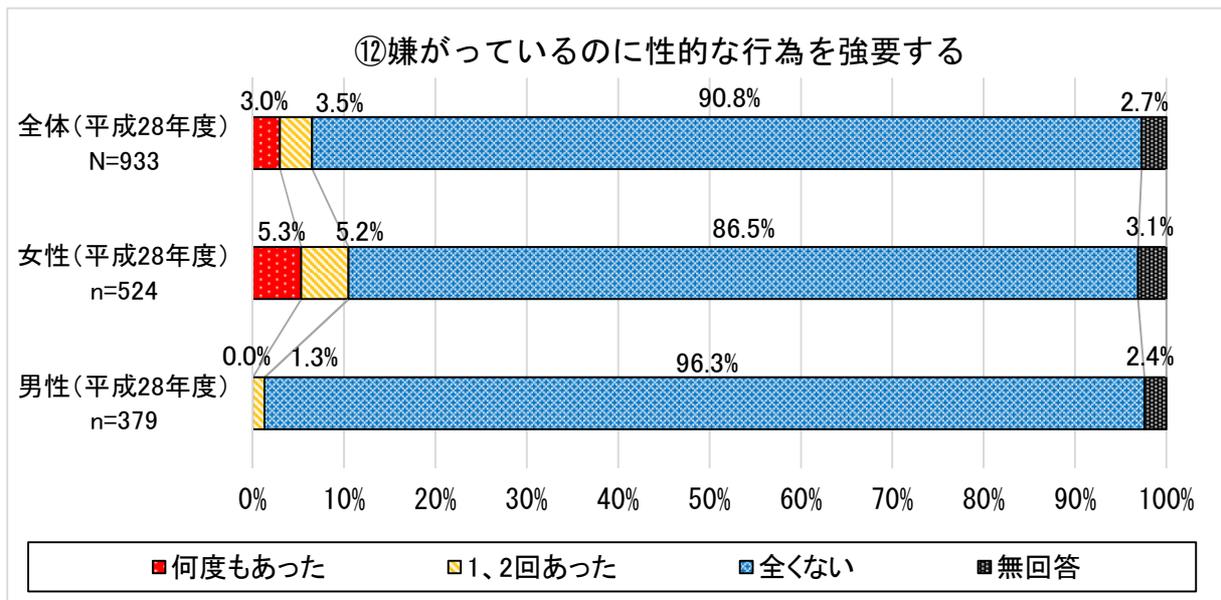


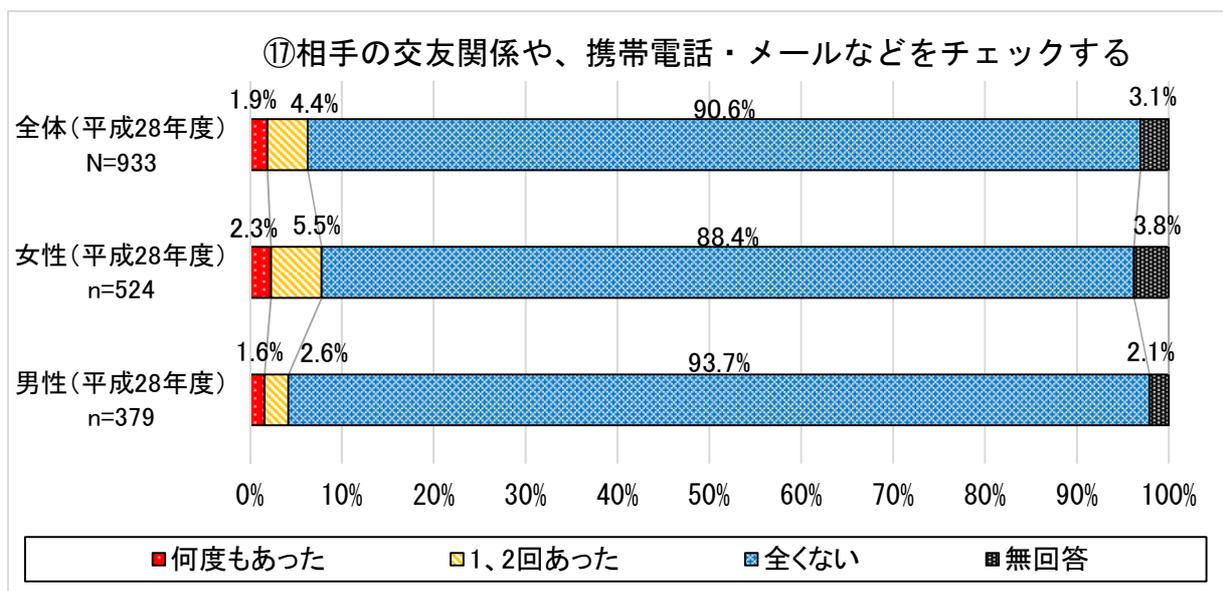
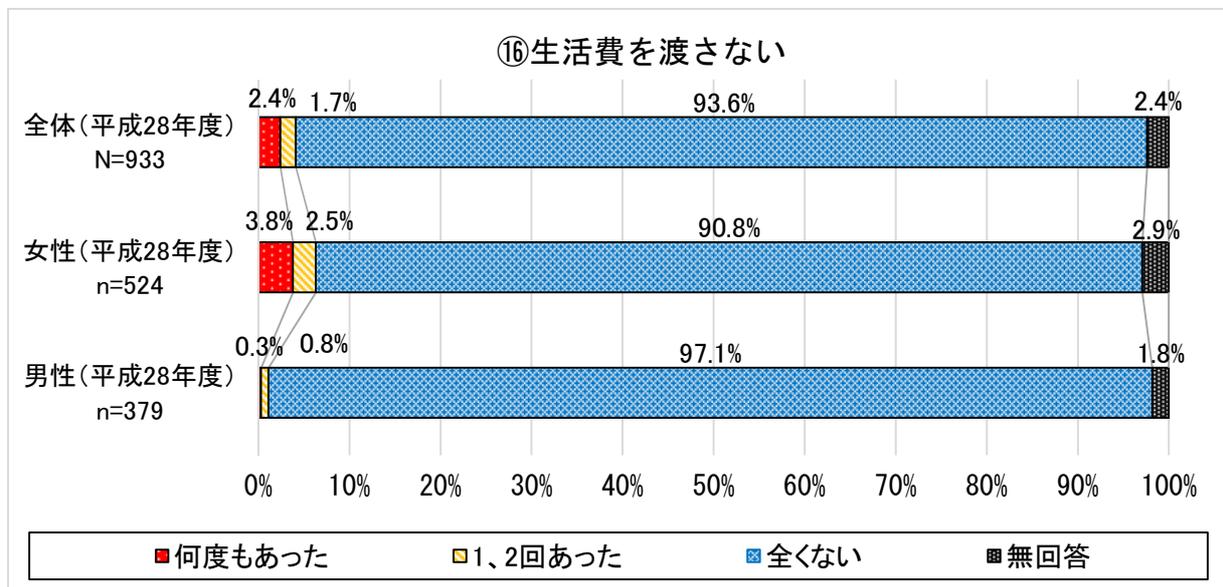
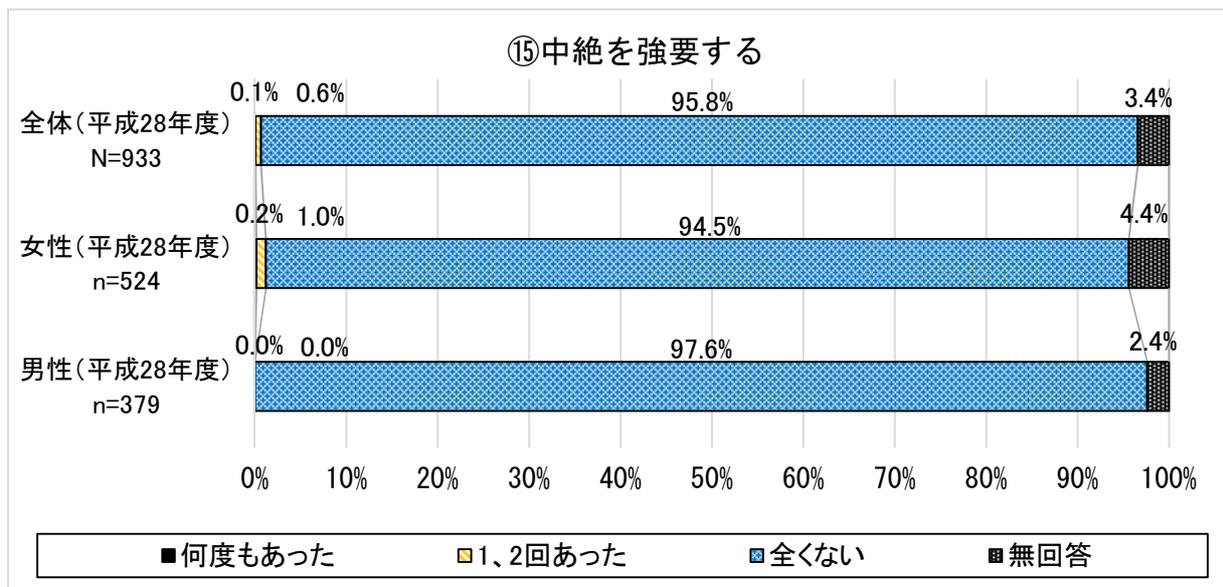
⑩ ドアや壁を蹴る、壁に物を投げるなどしておどす



⑪ つきまとう、待ち伏せする



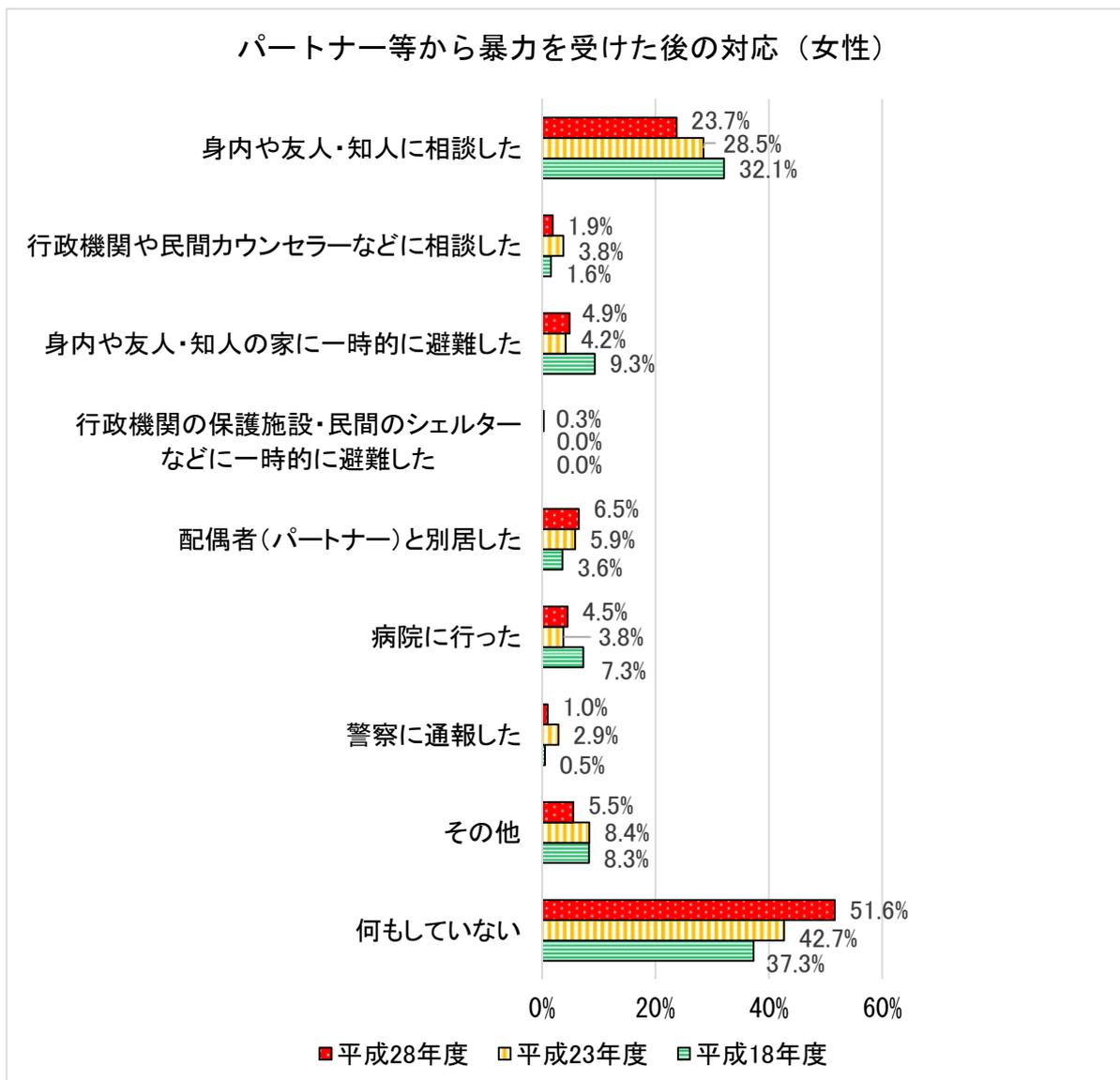




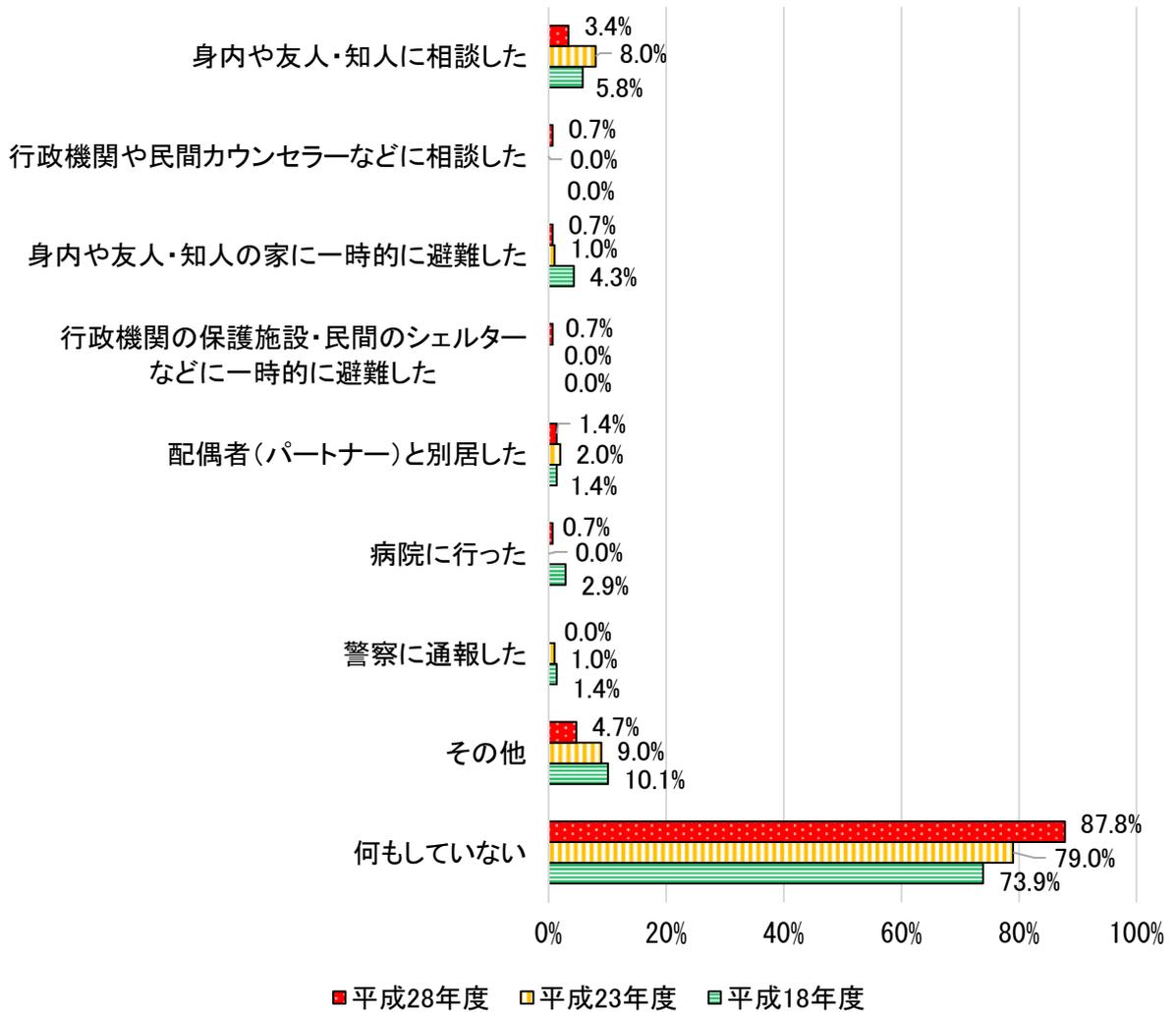
問16で1つでも「何度もあった」「1, 2回あった」とお答えの方が回答

問16-1. あなたは、その後どのように対応しましたか。(〇印はいくつでも)

男女とも「何もしていない」と回答した割合が最も高く、かつ過去2回の調査と比較して最高となった（男性87.8%、女性51.6%）。性別にみると、何らかの対応をした人の割合は男性より女性のほうが高く、「身内や友人・知人に相談した」と回答した割合は、男性が3.4%に対し、女性が23.7%と大きな違いがみられる。

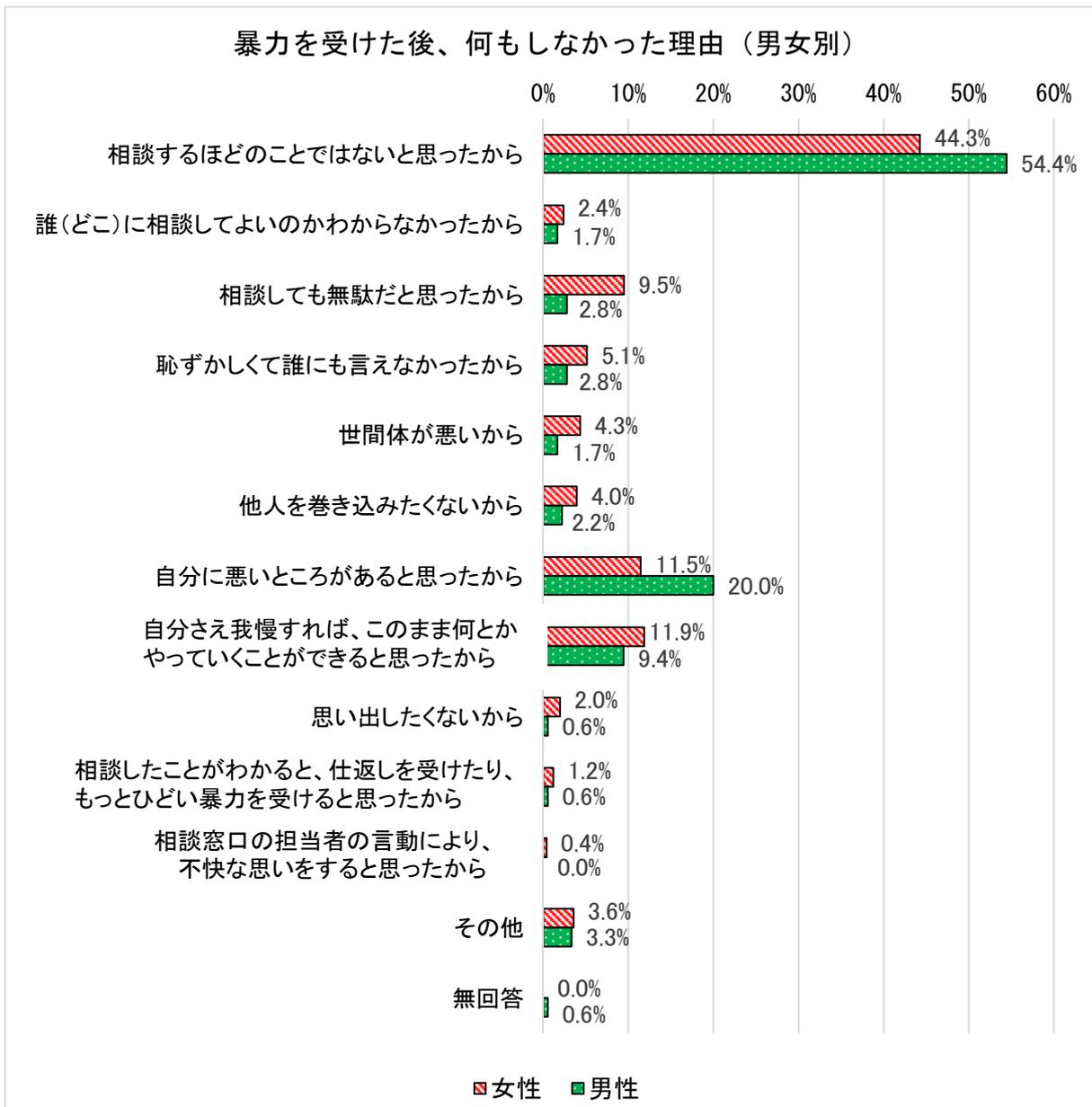


パートナー等から暴力を受けた後の対応（男性）



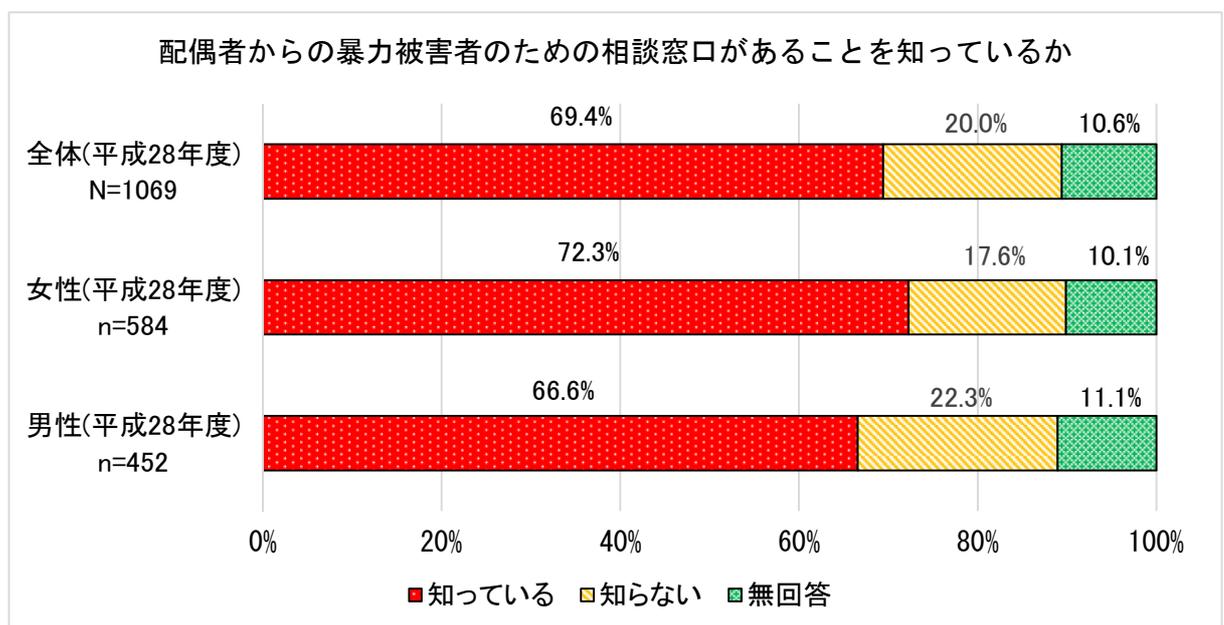
問16-2. あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇印はいくつでも)

男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」(女性 44.3%、男性 54.4%)、「自分に悪いところがあると思ったから」(女性 11.5%、男性 20.0%)、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」(女性 11.9%、男性 9.4%)の3項目を回答した割合が高くなっている。



問17. あなたは、配偶者（またはパートナー・恋人）からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の被害者のために、行政や民間の様々な相談窓口があることを知っていますか。（〇印は1つ）

「知っている」と回答した割合は、全体で 69.4%であった。また、性別でみると、「知っている」と回答した割合が女性のほうが男性よりも 5.7 ポイント高く、「知らない」と回答した割合は男性のほうが女性より 4.7 ポイント高かった。

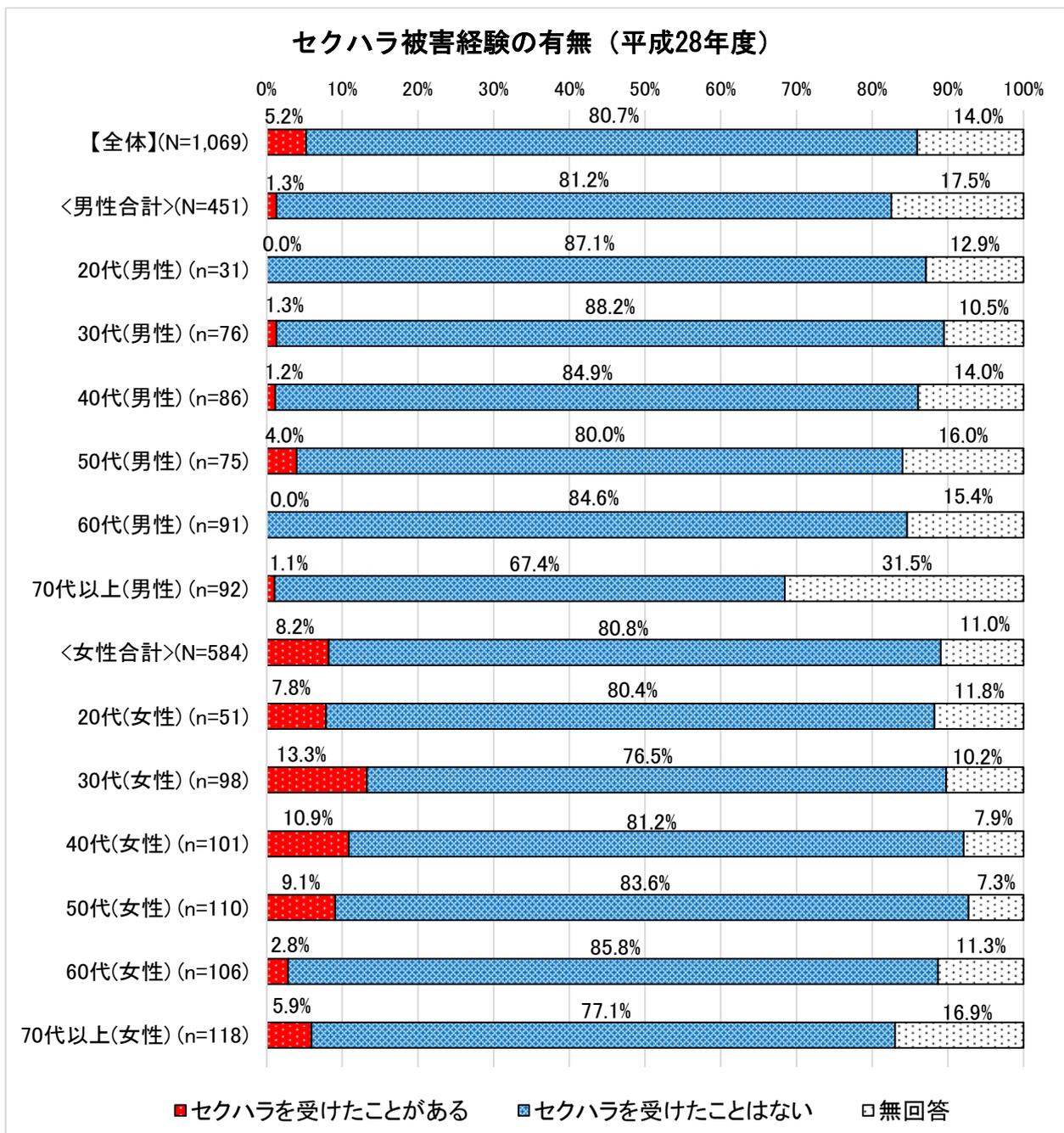


セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について

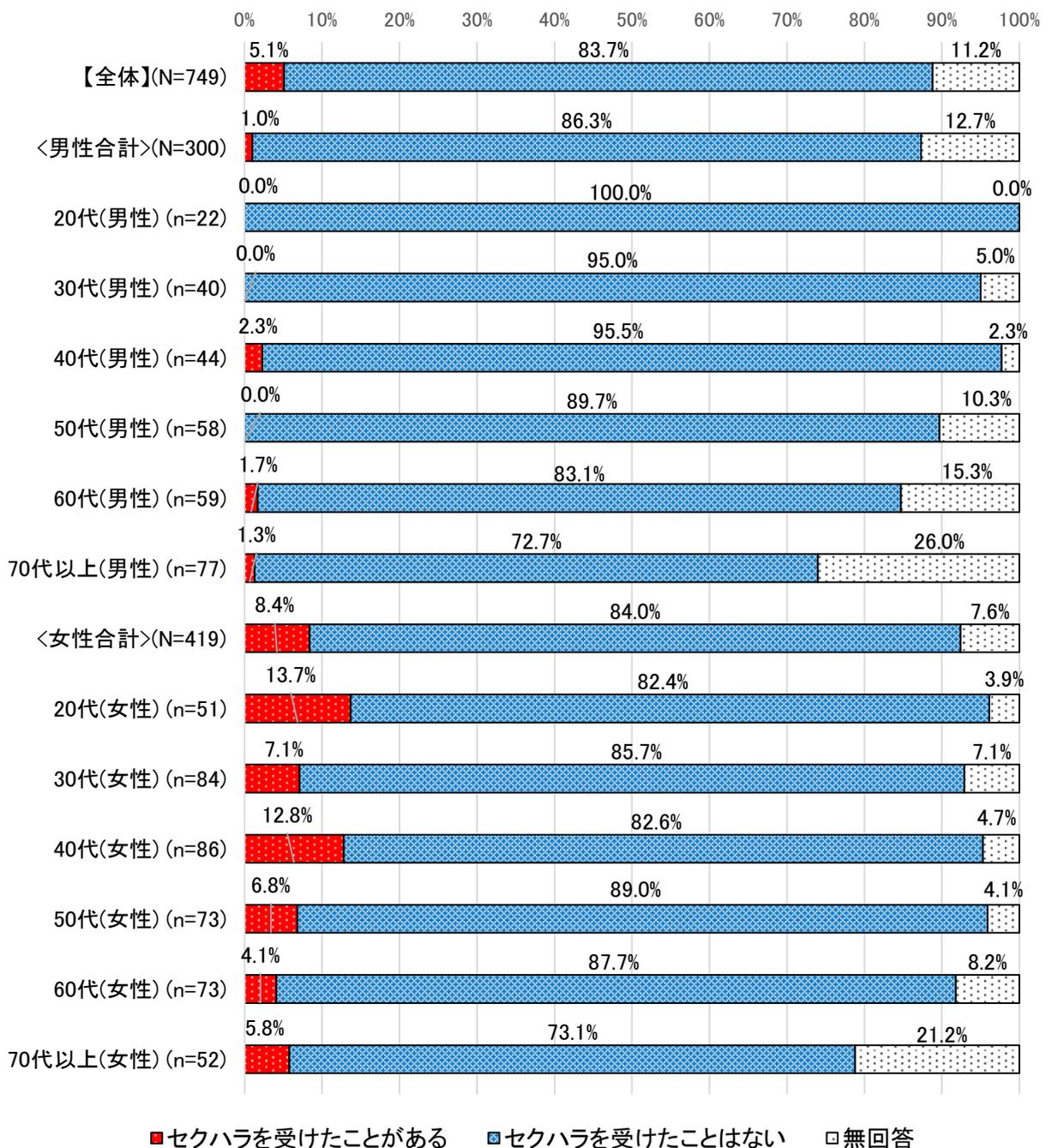
問18. あなたは、過去1年間にセクハラを受けたことがありますか。（○印は1つ）

過去1年間のセクシュアル・ハラスメントの被害経験についてみると、男女とも「セクハラを受けたことがない」との回答がほとんどであるが（男性81.2%、女性80.8%）、男性は1.3%、女性は8.2%が「セクハラを受けたことがある」と回答している。また、男性は無回答が17.5%である。

前回調査と比較すると、顕著な差は見られないが、被害経験について、女性では20代、40代、60代で減少し、30代、50代で増加している。また、男性では50代で増加している。



セクハラ被害経験の有無（平成23年度）

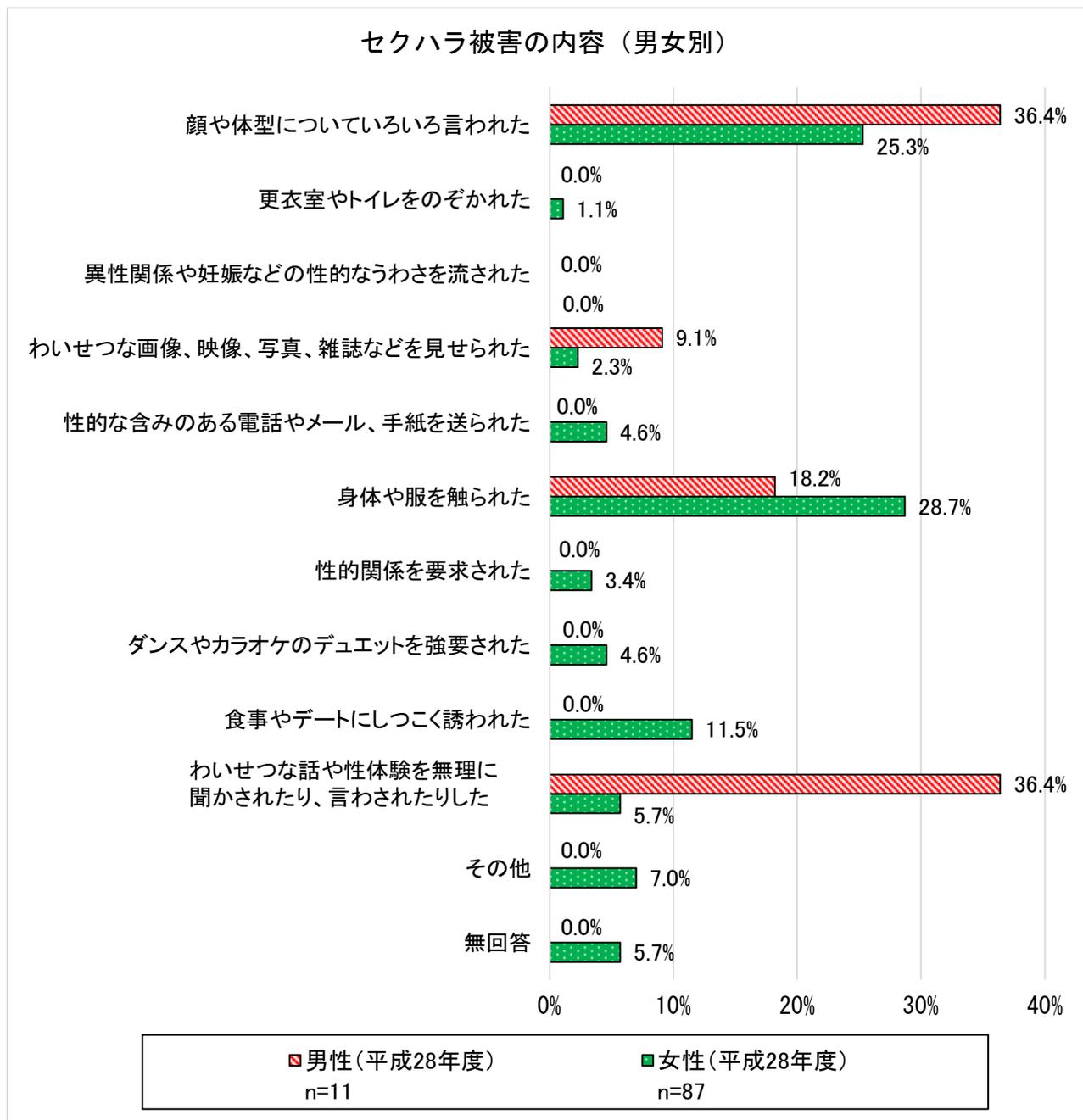


問18で「1. セクハラを受けたことがある」とお答えの方が回答

問18-1. 具体的にどのようなことでしたか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇印はいくつでも)

セクハラ被害の内容を尋ねたところ、女性では、「身体や服を触られた」と回答した割合が28.7%と最も高く、以下「顔や体形についていろいろ言われた」(25.3%)、「食事やデートにしつこく誘われた」(11.5%)と続いている。

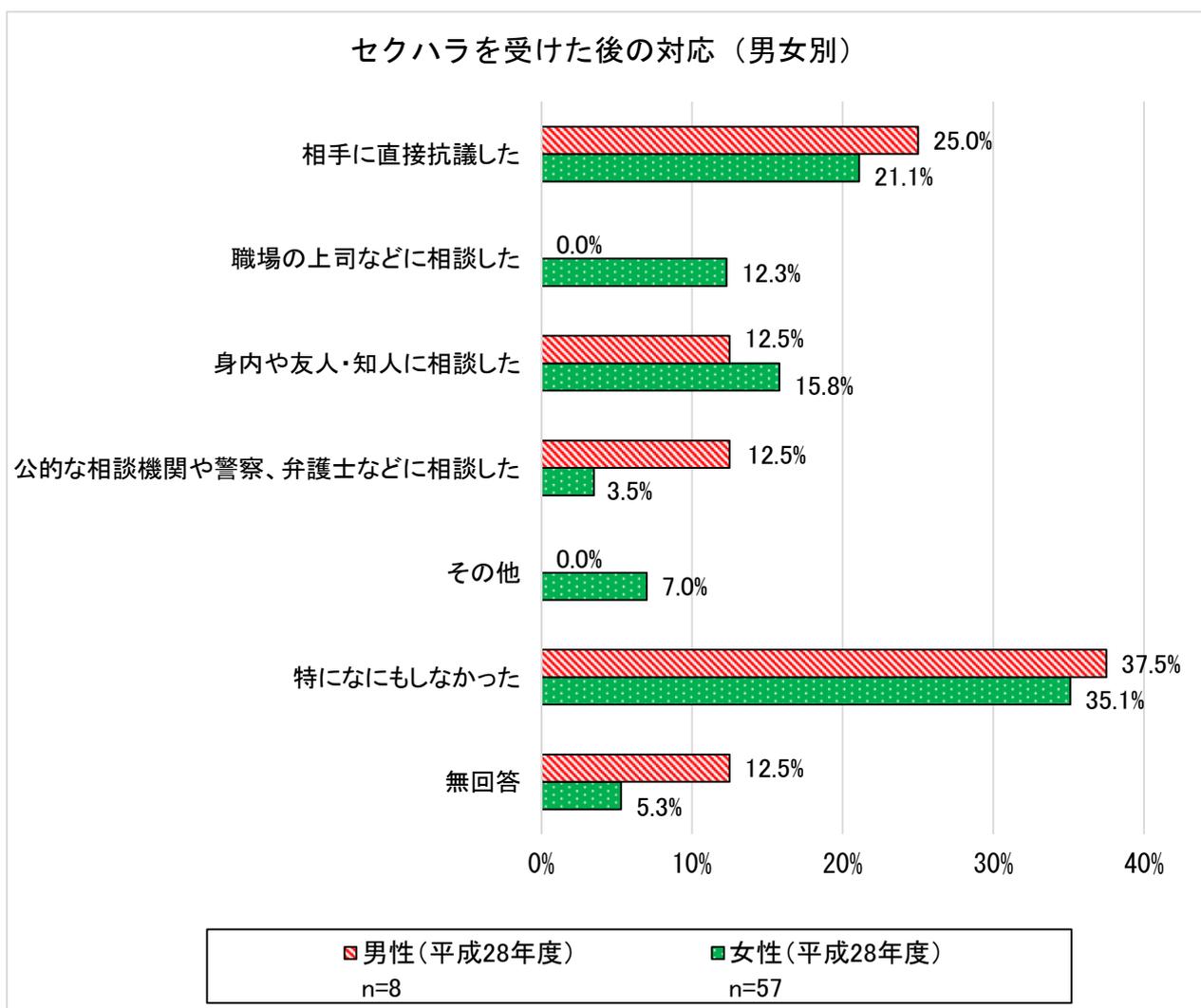
男性では「顔や体形についていろいろ言われた」(36.4%)、「わいせつな話や性体験を無理に聞かされたり、言わされたりした」(36.4%)がともに高い。



問18で「1. セクハラを受けたことがある」とお答えの方が回答

問18-2. あなたは、その後どのように対応しましたか。(〇印はいくつでも)

セクハラを受けた後の対応について尋ねたところ、男女とも「特に何もしなかった」が最も多い。何らかの対応をした人の内容では、女性は「相手に直接抗議した」が21.1%と最も多く、以下「身内や友人・知人に相談した」(15.8%)、「職場の上司などに相談した」(12.3%)と続いている。男性も「相手に直接抗議した」(25.0%)が最も多く、「身内や友人・知人に相談した」、「公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した」(ともに12.5%)と続いている。



問19. DV（ドメスティック・バイオレンス）やセクハラ、性犯罪などへの関心が高まっていますが、このようなことを防止・根絶するための取り組みとして、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（〇印は3つまで）

女性に対する暴力をなくすために必要な対策をみると、全体では「加害者の処分を厳しくする」（23.3%）が最も多く、以下「被害者が安心して相談できる窓口を設置する」（16.8%）、「法律・制度の制定や改定を行う」（12.3%）と続いている。

前回調査と比較すると、「被害者を一時的に保護できる施設を整備する」と回答した割合が3.3ポイント上昇しており、女性に対する暴力に対して社会的な支援が必要であるという考え方が強くなっている。

